

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



2018/12/14



2018/12/07

自然壊すし訴え続けたいクマの写真家

豊か自然と野生動物を知らぬクマから、ホリ袋を産出し、たどられてくる男性。シームレス、早ヒア。捨てられて川に流れて無数の袋が殺の誤食で死ぬ。成る姿に感ずる。環境を守りたい。強い意思を胸に男性は産物を求める挑戦を始めた。

川南保育園
マインプラスの袋を
の袋を
しかり開いてい
ます。



2018/12/07

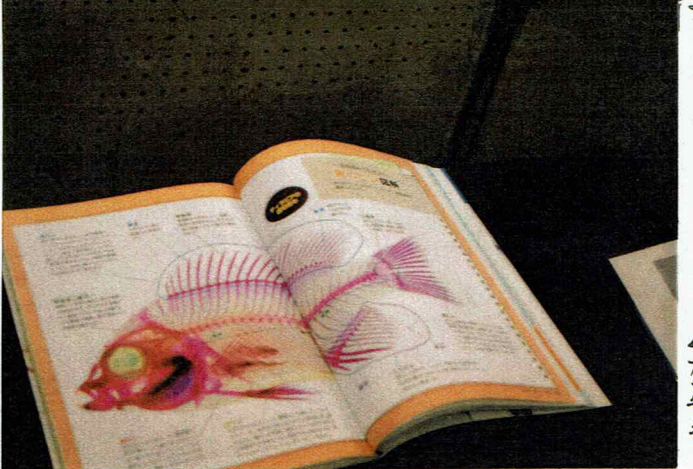
庄内川には好くいるとのこと
劇場かなで、
ロボットショー、プラスの川への削減



2011 大阪府立環境農林水産総合研究センター 特定外来生物

一カ、プラスの海に
はま海洋汚染
も深刻で
2018年開かれ
た主要な国
首脳会議で、
プラスの削減
が議論された。
7人の代表は捨
てプラスの廃棄
量は米国の世界
位で日本は2位。
日本では、本
規制にして自
ヤリ売店の取
みか中心。政
2019年大政
なれる主要20
地域首脳会議

1人あたりの
プラスの廃棄
日本2位。
国連環境計画
が発表した報告
書によると、
ポリ袋などのプラス
チック製の50年
代から急速に普及
した。
これまでの生産量
は約80億トンで、
うち60億トン以上
がゴミとして廃
棄されリサイクル
は9割にとどまる。
ポリ袋の輸入や製
造、無料配布と
規制する国は
00年代に入ると急増
し約60カ国あると
いう。



矢野川の
削減やリサイクル推進
の方向性を示す方針
だ。 解体図
カダヤシ

